

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

学校名	三重調理専門学校
設置者名	学校法人 大川学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
衛生専門課程	調理経営学科	夜→通信	210 単位時間	160 単位時間	
	調理師科	夜→通信	90 単位時間	80 単位時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ファイルにして保管。要望により閲覧可能。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	三重調理専門学校
設置者名	学校法人 大川学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

事務所にて保管。要望により閲覧可能。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	住職	2021/5/27～ 2025/5/26	学校運営体制の監督・助言
非常勤	元教育委員会 元小学校校長	2021/5/27～ 2025/5/26	学校運営体制の監督・助言
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	三重調理専門学校
設置者名	学校法人 大川学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 講師、教員の会議をもち、教育方針の確認及び授業評価等を行い、担当教員(講師)が授業の内容、授業時間、到達目標など記載の授業計画(シラバス)を3月までに作成し、学生には4月に公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	ファイルにして保管。要望により閲覧可能。
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 両科共に前期・後期の学科試験、実技試験を実施し、60点以上(100点満点)を合格とし、修了認定とする。不合格の場合、再試験実施し、合格後修了認定とする。また単位認定に必要な出席日数が不足の場合は補習を実施する。年度末に卒業審査を協議する会議を行い、履修を認定する。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 履修した全科目の成績を点数化し、学生の全履修科目の平均点を求める。 その結果から各学年で下記の指標の数値における成績分布状況と下位 1/4 に該当する人数と指標の数値を把握する。</p> <p>成績分布を示す指標の数値 ～49点 50～59点 60～69点 70～79点 80～89点 90～100点</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>ファイルにして保管。要望により閲覧可能。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 入学時に卒業認定条件を配布している。 卒業を認めるにあたっては、下記要件を満たしていること。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 規定の卒業認定単位が履修されていること。 卒業認定単位が不足の場合は、補習又は卒業延期の対象となる。 (2) 成績（本試験・再試験の合格者） (3) 提出物状況（ノート提出、レポート提出など） <p>年度末に卒業審査会議を行い、上記条件を満たしている学生の卒業を認定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ファイルにして保管。要望により閲覧可能。</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

学校名	三重調理専門学校
設置者名	学校法人 大川学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	事務所にファイルにて保管。要望により閲覧可能
収支計算書又は損益計算書	事務所にファイルにて保管。要望により閲覧可能
財産目録	事務所にファイルにて保管。要望により閲覧可能
事業報告書	事務所にファイルにて保管。要望により閲覧可能
監事による監査報告（書）	事務所にファイルにて保管。要望により閲覧可能

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		専門	調理経営学科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,770 単位時間/単位	660 単位 時間	330 単位 時間	750 単位 時間	30 単位時 間	0 単位時 間
		1,770 単位時間/単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		32人	0人	6人	14人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）講師、教員の会議をもち、教育方針の確認及び授業評価等を行い、担当教員（講師）が授業の内容、授業時間、到達目標など記載の授業計画（シラバス）を3月までに作成する。学生には4月に公表している。
成績評価の基準・方法
（概要）前期・後期の学科試験、実技試験を実施し、60点以上（100点満点）を合格とし、修了認定とする。不合格の場合、再試験実施し、合格後修了認定とする。また単位認定に必要な出席日数が不足の場合は補習を実施する。年度末に卒業審査を協議する会議を行い、履修を認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級を認めるにあたっては、下記要件を満たしていること。 (1) 規定の卒業認定単位が履修されていること。 卒業認定単位が不足の場合は、補習又は卒業延期の対象となる (2) 成績（学科・実技試験の合格者）60点以上（100点満点） (3) 提出物状況（ノート提出、レポート提出など） 年度末に卒業審査会議を行い、上記条件を満たしている学生の卒業を認定する。各科目の取得単位、出欠状況、前期・後期試験の結果を基に卒業進級認定会議をもち、卒業進級の認定を行う。
学修支援等

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎技術向上を目的とした指導実習の開催 ・履歴書の書き方・面接指導等の就職支援 ・資格取得のための勉強方法、実技指導

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (100%)	0人 (0%)	21人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 三重県内外のホテル・飲食店、給食施設			
(就職指導内容) 学内で企業ガイダンス（オンライン説明会）を実施するなど就職情報収集を促し、企業訪問・就職試験へつなげ、希望の企業・飲食店の就職を実現する。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
調理師免許証 製菓衛生師*1年次に受験資格取得。2年次に国家試験受験 レストランサービス技能士3級*2年次に国家検定受験 ふぐ処理者免許、食育インストラクター			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.5%
(中途退学の主な理由) 体調不良（メンタル）		
(中退防止・中退者支援のための取組) メンタルケアの授業を設置。保護者と連絡を密に取り、適宜面談を実施。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
衛生	専門	調理師科	-	-			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	960 単位時間/単位	540 単位 時間	0 単位時 間	390 単位 時間	30 単位時 間	0 単位時 間
			960 単位時間/単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
30人	21人	0人	6人	14人	20人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）講師、教員の会議をもち、教育方針の確認及び授業評価等を行い、担当教員（講師）が授業の内容、授業時間、到達目標など記載の授業計画（シラバス）を3月までに作成する。学生には4月に公表している。
成績評価の基準・方法
（概要）前期・後期の学科試験、実技試験を実施し、60点以上（100点満点）を合格とし、修了認定とする。不合格の場合、再試験実施し、合格後修了認定とする。また単位認定に必要な出席日数が不足の場合は補習を実施する。年度末に卒業審査を協議する会議を行い、履修を認定する。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級を認めるにあたっては、下記要件を満たしていること。 （1）規定の卒業認定単位が履修されていること。 卒業認定単位が不足の場合は、補習又は卒業延期の対象となる （3）成績（学科・実技試験の合格者）60点以上（100点満点） （3）提出物状況（ノート提出、レポート提出など） 年度末に卒業審査会議を行い、上記条件を満たしている学生の卒業を認定する。各科目の取得単位、出欠状況、前期・後期試験の結果を基に卒業進級認定会議をもち、卒業進級の認定を行う。
学修支援等
（概要） ・基礎技術向上を目的とした指導実習の開催 ・履歴書の書き方・面接指導等の就職支援 ・資格取得のための勉強方法、実技指導

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	17人 (89.5%)	2人 (10.5%)
（主な就職、業界等）三重県内外のホテル・飲食店、給食施設			
（就職指導内容）学内で企業ガイダンス（オンライン説明会）を実施するなど就職情報収集を促し、企業訪問・就職試験へつなげ、希望の企業・飲食店の就職を実現する。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 調理師免許証、ふぐ処理者免許			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	3 人	13.6%
(中途退学の主な理由) 体調不良 (メンタル)、方向性の変化		
(中退防止・中退者支援のための取組) メンタルケアの授業を設置。保護者と連絡を密に取り、適宜面談を実施。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
調理経営 学科	200,000 円	1,160,000 円	円	
調理師 科	200,000 円	1,020,000 円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
独自奨学金実施				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ファイルを作成し、保管。要望により閲覧可能。		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>年度中に学校関係者評価委員会を開催し、以下の項目について学校が行った自己点検評価について学校関係者評価委員が適切であるか評価し、意見をいただく。</p> <p>自己評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教育理念・目標 ② 学校運営 ③ 教育活動 ④ 学習成果 ⑤ 学習支援 ⑥ 教育環境 ⑦ 学生の受け入れ募集 ⑧ 財務 ⑨ 法令遵守 ⑩ 社会貢献・地域貢献 <p>学校関係者評価委員による評価結果や改善等の意見を活用し、学校長を責任者とする会議を開き、改善方策を定めると共に目標・計画を作成する。作成した目標・計画は教育活動・学校運営等の課題とする。教員、講師出席の会議を持ち、課題を共有し、関係業界の求める人材育成のために学校運営と教育活動の組織的な改善を図る。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
業界団体	令和4年4月～令和5年3月	副会長
ホテル (日本料理) ・ 卒業生	令和4年4月～令和5年3月	料理長

学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ファイルを作成し、保管。要望により閲覧可能		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ohkawa-gakuen.ac.jp/tyouri
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	三重調理専門学校
設置者名	学校法人 大川学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		-人	-人	-人
内 訳	第Ⅰ区分	-人	-人	
	第Ⅱ区分	-人	-人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				-人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令 (令和元年政令第49号) 第2条第1項第1号、第2号、

第3号に掲げる区分をいう。
 ※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以 下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間数 が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）
--	---------	---

	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間数 が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。